

編集後記

■編集委員

委員長

藤田 郁代

副委員長

立石 雅子

今井 智子

内田 信也

宇野 彰

勝木 準

熊倉 勇美

倉内 紀子

城間 将江

鈴木 恵子

関 啓子

玉井 ふみ

深浦 順一

矢守 麻奈

今冬は例年に増して寒さが厳しく、北日本などでは繰り返し大雪警報・注意報が出されました。本誌が届く頃は桜の便りが聞かれる季節となりますが、厳しい冬を越して咲く花はいつそう鮮やかなことでしょう。

さて今号には、発語失行の評価と記憶障害の道順訓練をテーマとした原著論文2編とシンポジウム「大規模災害への対応」が掲載されています。「大規模災害への対応」は、昨年6月に福岡市で開催された第13回日本言語聴覚学会のシンポジウム演題をまとめたものです。震災から2年が経過しましたが、被災地の復興は思うように進んでおらず、福島原発については今後の見通しさえはつきりしません。自然の猛威は再びいつ、どこに襲ってくるかわからず、今回の経験から得たものを共有し、次に活かすことが非常に重要です。

社団法人日本言語聴覚士協会は震災発生の直後に深浦順一会長を本部長とする災害対策本部を立ち上げ、都道府県言語聴覚士会と連携してボランティア派遣や物資の提供など被災地支援を行ってきました。演者は全員が言語聴覚士であり、それぞれ被災地の県職員、県士会、派遣ボランティアの立場から、自分が経験したことをまとめ、今回の問題点と今後の課題を検討しています。災害時のリハビリテーション支援では行政職、専門職、ボランティア、一般住民など多彩な人々とのチーム連携が何よりも大切で日頃の臨床活動を通じてネットワークの輪を広げ、多様な人々とのつながりを作っておくことが重要です。リハビリテーション関連の学会や職能団体は共同で災害コーディネーターの研修に取り掛かりましたが、本分野でも「災害言語聴覚療法」の理論と技術を確立することが急がれます。本シンポジウムはこれに向けた貴重な経験と意見が述べられていますので、是非ご一読下さい。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第10巻 第1号)2013年3月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎ 03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2013, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

☎113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)